＜学校運営協議会＞＜地域学校協働本部＞

連携協働通信「架け橋」

令和５年 12 月 18 日

横浜市教育委員会　学校支援･地域連携課　発行　NO. 35

各学校や地域における地域学校協働活動の推進を目的に、地域と学校の連携・協働に関する情報を発信する連携協働通信「架け橋」を発行しています。当課の Web サイトでもご覧いただけます。
https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kosodate-kyoiku/kyoiku/sesaku/chiikirenkei/gakkoushien.html

学校運営協議会委員及び学校･地域コーディネーター及び教職員合同研修

10 月 25 日（水）、10 月 31 日（火）に、学校運営協議会委員、学校・地域コーディネーター、教職員を対象とした合同研修を実施しました。具体的な活動事例として、今回は六浦中学校　むつうら教育支援本部、上菅田中学校・上菅田笹の丘小学校合同学校運営協議会の取組についてご紹介いただきました。

六浦中学校の込江校長からは教育支援本部という組織があることで、地域との関係性がしっかりと作られ、学校や子どもたちが支えられているという話がありました。学校・地域コーディネーターの物井さんからは、むつうら教育支援本部の取組と課題というテーマのもと、事例を交えながら説明していただきました。

上菅田笹の丘小学校の世古校長からは開校４年目の同校におけるこれまでの学校運営協議会の歩みとして、単独での学校運営協議会から上菅田中学校と合同で学校運営協議会を設置した経緯やこれからの協議会の方向性や熟議の実践について、また地域学校協働本部の取組についてお話をいただきました。
その後、２校の紹介を踏まえ、参加者の皆さんで ①自校における地域と学校の連携・協働（学校運営協議会・地域学校協働活動）②実践から、自分は何をしていきたいか（今後の取組の方向性）をテーマにグループワークを行いそれぞれの活動について協議を深めました。

今回の研修は、多くの取組を進めていただいている小中学校、学校・地域コーディネーターに事例報告としてお力添えを頂きました。事例に基づき、必ずこのようにやらなければならないというものではありません。今回の事例から、自校に何か活かせそうなことや今後取り組みたいことの参考にしていただきたいと考えています。活動を進めていく中で、何かありましたらいつでも学校支援・地域連携課にご連絡ください。

研修振り返り（自由記述）

- 六浦中の活動は歴史もあり、幅広い内容が参考になった。上菅田笹の丘小のボランティアカードは取り入れたい。
- 学校運営協議会が固定化されているので、教職員に入ってもらったり、熟議の場があるといいと思った。
- 学校との連携をもっと密に取り、必要なサポートをしていけるよう努力したい。
- 他校を参考にしながら、ゆっくり仕組み作りをしていきたい。
- 子どもたちのために、地域、学校、家庭が連携しみんなで関わっていくことが大事であるという事を学んだ。
- より学校のニーズを把握し、具体的なアクションができるようにしたい。
- 熟議をぜひ、実施したいと思った。それによって、各自ができることも洗い出しができ、学校・地域コーディネーターの方もやりやすいかと思った。
- 地域の方の熱心な姿勢を直接お会いすることで実感することができた。
- 実践例をもとに運営のあり方や現状の課題点などを学び、勤務校での実態と照らし合わせながら研修を受けることができた。

２校の実践発表より抜粋

＜むつうら教育支援本部の取組と課題＞
～学校・地域コーディネーターと地域学校協働本部の役割とは～

・むつうら教育支援本部の目的と組織

学校・家庭・地域の連携協力を強化し、地域全体で学校教育を支援することを目的に、横浜市教育委員会の「地域学校協働活動事業」、「放課後学び場事業」の委託を受け、2015 年度（平成 27 年度）から六浦中学校で発足した組織。「学校･地域コーディネーター」を中心に、地域住民や保護者で構成。地域・ボランティアと連携しながら、六浦中学校生徒及び、学区小学校児童の健全育成と総合的な教育力を高めることをめざしている。

学習活動支援
読み聞かせ
図書整備ボランティア
学習支援(放課後学び場)
キャリアデザイン支援
(職業講話・職業体験の支援等)

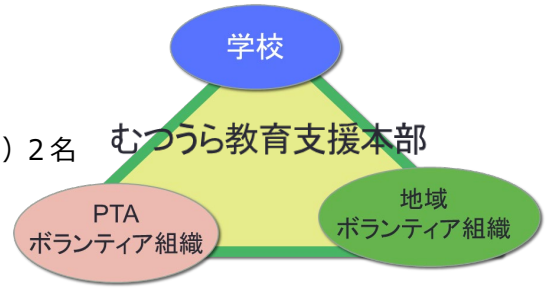
地域連携支援
フローリスト
(校内花壇整備)
部活動交流会
学区内小学校との連携
むつうら教育支援だより発行
金沢区コーディネーターの連携

保健安全支援
体育祭等の行事支援
見守り活動
（地域、保護司、
少年補導員等との連携）
防災活動支援
健康・安全講座などの開催

定例会議の開催

構成する役員と委員、学校長、副校長、生徒指導専任参加での定例会議を２９年度までは毎月１回程度。３０年度以降は２ヶ月に１回開催。運営上の活動予定や予算、課題について話し合い、貴重な情報交換の場となっている。

本部役員と運営委員



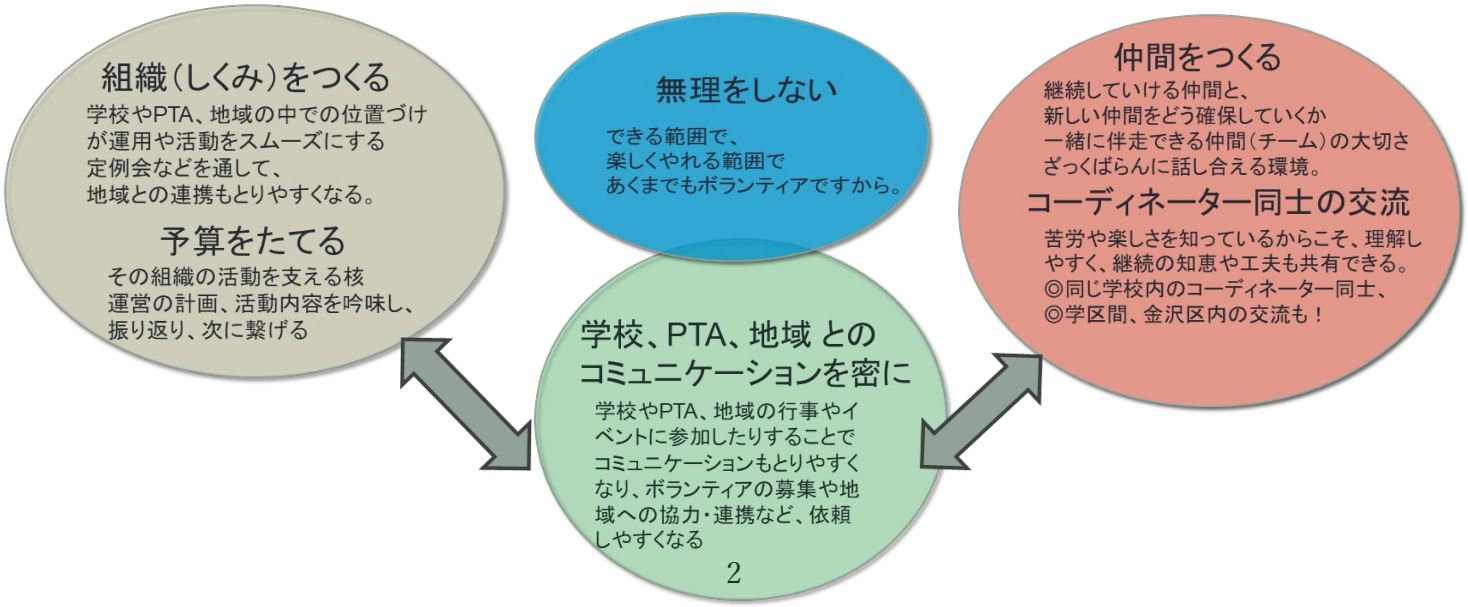
《代表》 元ＰＴＡ会長 （学校・地域コーディネーター）
《副代表》 現ＰＴＡ会長、元ＰＴＡ副会長（学校・地域コーディネーター）２名
《会計》 元ＰＴＡ副会長等、３名
《顧問》 六浦連合町内会会長、六浦東連合町内会会長 各１名
《会計監査》 前ＰＴＡ会長にお願いすることが多い １名
《運営委員》 ９名 ●花のボランティア“フローリスト” 代表 ●図書整備ボランティア 副代表●読み聞かせボランティア〈おはなしの翼〉副代表 ●青少年指導員各地区代表２名 ●スポーツ推進委員各地区代表２名●朝の挨拶運動代表 ●部活動交流会代表

課題として

学校・地域コーディネーターとして立ち位置の難しさや、学校管理職の異動がある中での学校のニーズ把握の難しさ、現場教職員の本事業やコーディネーターに対する認識差や温度差、人材不足・負担増、地域との関係性等課題がある。解決のためには学校全体・教職員の理解、コミュニケーションの必要性、人材支援については大学ボランティアセンターへの行政からの働きかけ、財政的支援の強化と諸手続きの簡略化、地域人材の掘り起こしへの行政的支援が必要である。

運営の工夫と無理なく継続するために

コーディネーターの役割として、コーディネートに徹するのか、活動がメインなのか、両者の場合かを考えることが大切。



＜上菅田笹の丘小学校　学校運営協議会の歩み＞

笹山小学校と上菅田小学校が統合し、令和２年４月１日に上菅田笹の丘小学校が開校。開校初年度の令和２年度に上菅田笹の丘小学校学校運営協議会が設置された。

○令和２年度　※入学式、始業式は実施したが４月～５月は休校。６月は分散登校。
　学校運営協議会は４回開催。うち３回はコロナの状況も重なり書面開催。

○令和３年度
　１回目～３回目は通常開催。４回目は緊急事態宣言のため、書面開催。
　第３回目の協議会において、授業参観と教職員とのグループワークを実施。

○令和４年度より、上菅田中学校・上菅田笹の丘小学校合同学校運営協議会設置
＜第１回＞５月　学校経営方針の承認　＜第２回＞９月　小学校授業参観、移転延期
＜第３回＞11 月 中学校授業参観、意見書の扱いについて＜第４回＞２月　学校評価 次年度に向けて

第４回　～次年度に向けた課題～

委員か方々から頂いたご意見

・今年度は、グループワークでの熟議がなかった。

・テーマを決めて少人数で熟議したい。

・学校評価表が分かりにくい。答えられない項目が多い。

令和５年度に向けての方向性を決定。

・できるだけ少人数で話し合う。

・２、３回目はテーマを決めて少人数で熟議する。

・２、３回目の熟議では、教務主任や専任だけでなく各校の教職員も出席して、委員とグループワークをする。

・委員が答えやすいような学校評価の項目に修正。

○令和５年度　第１回　５月実施　学校運営協議会　中学校開催

・学校経営方針説明

・今年度の運営協議会の方向性説明

・グループ協議

・全体で共有

令和５年度第１回 ご意見

・ここ数年、コロナウイルス感染防止のため、地域と学校の距離が広がったように感じる。

・小中一貫教育とは、具体的にどのようなことなのか、よくわからない。

Q 自己肯定感をどのように高めているのか？

Q 働き方改革の推進とは、具体的にどのようなことなのか？

○令和５年度　第２回 ９月実施 学校運営協議会　小学校開催
【教師の働き方】をテーマに副校長、教務主任、専任が司会進行。小中教員、中学校養護教諭も参加し熟議を実施。
教師としてのやりがい、働き方の課題、自分の課題、学校の課題について協議。
＜教師のやりがい＞子どもが好き、「おはよう」「わかった」等のキラキラした子どもの笑顔、子ども一人ひとりの成長を見られる幸せ、協力し合っている子どもたちの様子
＜働き方＞事務作業に追われてしまう、部活動ガイドラインで土日等の部活動練習が改善された、保護者や地域の方によるボランティアのありがたさ、教材研究、家庭の時間、自分の体力等、バランス良いワークライフが大切
今回の熟議により様々な話が共有された。委員の方々には、教職員の本音を聞くことにより、学校への理解をより深めていただくことや、教職員は地域の方の存在を、より強く意識することにつながると考えている。
次回は小、中学校における不登校の現状及びその対応について、熟議を進めていく。

＜上菅田笹の丘小学校地域学校協働本部＞

○メンバー　・地域学校協働活動推進委員７名

・運営委員　７名（見守り、図書、環境整備等）

・ボランティア多数

○年に ２回 運営委員会

○代表と学校で情報共有
（副校長またはボランティアカード）

○メンバー同士は、ラインで情報共有

実際に使用しているボランティアカード

上菅田笹の丘小 地域学校協働本部	要請学年	年　組	申込日：	年　月　日
	要請教科・行事		担当職員	
学習のめあて		活動場所		
サポート内容		雨天時	決行　キャンセル 振替（予備日同時募集 or あとで）	
集合場所		集合時間	：	
要請月日　曜日	活動時間帯	サポーター必要人数	サポーターの服装・持ち物・お願いなど	
月　日	：　～　：	人		

何故、社会とつながる学びが必要なのか

11 月 14 日（火）、11 月 22 日（水）に、教職員を対象とした研修を実施しました。今回は「認定特定非営利活動法人こまちぷらす」の理事長である　森　祐美子　様を講師にお迎えして表題の件について、講演していただきました。講演の中ではこまちぷらすで実際に行っている協働事例やプロジェクトの紹介がありました。ウェルカムベビープロジェクトとして、まち全体で赤ちゃんの誕生をお祝いし、子育てを応援できる社会になることを目指しているプロジェクトの紹介や、おむつを飲み物自動販売機で販売したプロジェクトの話があり、一人のお父さんの「おむつが自販機で買えたらいいな」という一言からおむつの販売会社と自販機の会社がつながることができ、設置につながったという話がありました。

協働の考え方として・・・

○ともに目的が同じで、同じように活動すること

○目的が同じだが、主役 A に B が協力すること

○目的は違うが、同じ目標を達成することで、それぞれ目的を達成。それぞれの「したいこと」が違う、という前提のもとに、「共通の目標をつくる」

※まさに上記の自販機の会社とおむつの販売会社がつながるという事。

というような考え方が紹介されました。

また協働において大事なポイントとして

・「目標」に賛同する参加者が、関わる中で安心し、楽しいと感じ、元気になること。
・そのためには、個人の意志や想いが起点にあること
・価値創造は、その意志や想いをもつ個人が、周囲を巻き込むことから始まるということ
　＝つながるということは、まず、自分自身とつながること。

社会との協働事例から、学校での事例については研修に参加された東俣野特別支援学校の中井先生、仏向小学校の東森先生から実際に行っている事例を紹介いただき、参加した先生方でグループワークを通しながら自分事として考えていただくことができました。今、様々なことを学校だけで解決していくことが難しい部分があります。その中で、地域と繋がり、地域の方と共通の目標をもちながら、子どもたちを育てていくことが考えられます。初めは難しさを感じる部分もあるかと思いますが、軌道に乗ることでお互いにとってメリットのある活動につながっていきます。

研修振り返り（自由記述）

・連携・協働には様々な形があることや「関わるみんながそれぞれ少しずつ幸せになる」関わり方について教えていただき、自分が目指す連携・協働の在り方のヒントをいただけた。
・「学校のために地域の方々を活用する」という考え方が強かったと思います。でも「学校と地域が連携することによって学校も地域もよくなっていく」という視点を事務局説明や講師の方々のお話を聞いて学ぶことができました。
・子どもたちに社会とつながるよさを実感できるように、環境を整え、機会をつくっていくこと。それには学校が学校の中の価値観でとどまらず、地域とつながり多様な視点から学校づくりを問い直すこと。
・学校と他の機関とのそれぞれの想いを遠慮せずに出しあいながら、「それだったら一緒にこういうコラボができそうですね」といった提案、共通理解で物事が進められたら素敵だと思った。どちらか一方が我慢して協力するのではなく、協力したことで自分たちにもメリットが生じる、win-win の関係が築けるような学校運営協議会での話ができるようにしていきたい。
・地域との連携を、「前例がない」「できない」ではなく、楽しみながら組織として、目的をはっきりしてできることを考え、実践していきたいという思いに改めてなりました。
・一人一人がどんな社会を望んでいるのか、その当事者は自分であることの気づきがあるか、が大変重要だと感じます。
・「子どものために何かしたいと思っている人はいっぱいいる」「ニーズは埋もれている」というアンテナで、常に外部の方と関わっていくことがまず初めにできることだと考えました。
・学校内でも無理なく、持続できる取り組みかたを考えて地域と関わることが大切だと考えました。
・連携・協働において、一人ひとり「したいこと」が違うことを前提にして、共通の目標を作り、達成を目指すという考え方に納得しました。取り組む教員の主体性をどう引き出すのかが一番の課題だと思いますが、学校運営協議会や地域行事等との関わりの中で共通の目標設定をして効果を上げていきたいと思います。

今回の研修では、社会での協働事例を参考に学校での協働事例として実践していくことをねらいとしましたが、講師の　森　祐美子　様と以前から協働事例を通じて関わりのあった東野特別支援学校の　中井　大輝　教諭、仏向小学校の　東森　清仁　教諭に研修へご参加いただき、自校でのご自身の考えや取組をお話しいただきました。

研修の参加者からの質問に対して、当日お答えできなかったことも含め、両教諭にお答えいただきました。今後の取組の参考にしていただけたら幸いです。

○東俣野特別支援学校　中井教諭への質問について

①協働の出発点は何か？
→学びや学ばせたい内容と子どもの実態、課題を洗い出し、地域や外部の協力を得て実現可能な方法を模索し始めることが出発点。
②協働の進め方については？
→学校運営検討会や地域の集まりなどでの雑談（正式な議論ではなく）を活用し、学校の状況や困りごとを積極的に伝え、地域の方々からアイディアや協力を得て進める。
③校内の理解を得る方法は？
→先生たちとの日常的な会話や情報共有を通じて、校内での取組や進捗を共有している。管理職と具体的な提案や意見を共有し、校内にフィードバックしている。
④協働により働き方が変化したことは？
→地域の力を借りることで学校の資源に頼らずに済み、楽になった。初期段階や発信の時期には時間や労力がかかるものの、先生たちからの発信が増えている。
⑤協働と現行の働き方の両立のポイントは？
→初めの一歩は時間や労力を要するが、地域とのつながりや協力を築くことで、学校や先生たちにとって好ましい状況が生まれていく。初めの段階を乗り越えることが大切。
⑥異動時の引き継ぎで意識していることは？
→目的や関係性、相手の特徴、得意なことを理解し、後任や校内に情報として引き継ぐことで、関係の構築や接続を継続し、より良いものにしていくことを心掛けている。

○仏向小学校　東森教諭への質問について

①　誰に相談すればよいのか？
→本校の場合、総合の学習を軸に据えて外部連携を行っています。
そのため、「研究主任に相談して、探究課題に沿った外部人材を紹介してもらう」あるいは、「学級の取組の中で、児童と一緒に関わってくれる人を探す」の２パターンがあります。学校に色々と届く案内や、学区の人との関わりのなかで、「これはいつか使えそう」という視点をもっておくと、後々役に立つ日が来ると思います。

②　職員側の企画運営について
→地域のお祭りを学習発表の場として活用しているため、基本的に職員は運営には参加していません。（体育館・校庭・家庭科室等を提供したり、長机等の物品を貸し出したりはしています。）

③　職員が主体的に参加することについて
→総合的な学習の活動の発表の場の１つとして参加することを子どもと担任が選べることが、職員にとっても主体的に地域と関わる姿勢につながるのではないかと思います。また、①にも関連しますが、外部との協力をはじめから「地域」と限定することはしていません。過去にはテレビ局や聾学校と協力した単元づくりを行ったクラスもありました。職員のチャレンジを認め合える学校の雰囲気作りが大切だと思います。

学校運営協議会の設置について

各学校の校長におかれましては、10 月設置の学校運営協議会についてご準備いただき本当にありがとうございます。現在の学校運営協議会の設置校数は令和５年 10 月現在で 499 校になっております。今回、様々な事情により設置ができなかった学校においては来年度の４月の設置に向けて１月中に書類と名簿の提出をお願いいたします。設置に向けた地域との調整や委員の選定、既存の組織の運用などにおいて、まだ時間が必要だという学校については、設置に向けての相談や地域の方や委員になられる方への説明などを学校支援・地域連携課が行うことが可能です。その場合は、ぜひご相談をいただければと考えておりますので、ご連絡をいただけるとありがたいです。引き続き、よろしくお願いいたします。

学校運営協議会の令和6年４月設置について

	学校運営協議会　設置の機会
設置日	令和６年４月１日
申請書提出の締切日	**令和６年１月 31 日**

○申請の際は、設置申請書と名簿を合わせてご提出をお願いします。

※現在、単独設置の学校運営協議会を、複数校による合同協議会に切り替える場合、また複数校から単独での協議会をご検討の場合、以下の点にご注意ください。

①新たに単独または合同で立ち上げるまでの間、既存の学校運営協議会の設置校であり続けます。

②合同協議会または単独の協議会への移行について委員への丁寧な説明が必要です。

③協議会移行の際は再度、申請書と名簿の提出が必要になります。

※設置に向けてお困りの際は、学校支援・地域連携課にご連絡ください。

令和６年度　学校・地域コーディネーターの配置について

学校運営協議会と同様に、地域と学校を繋ぎ、総合調整を行う「学校・地域コーディネーター」の配置も継続して進めています。

今年度も 114 校の学校から 169 名の受講者が「学校・地域コーディネーター養成講座」を受講しています。うち 14 校は初めての学校・地域コーディネーターの推薦を行った新規校でした。

現在、横浜市では 461 校に学校・地域コーディネーターが配置されています。

「学校・地域コーディネーター」は学校長の推薦が必要で、学校長の推薦を受けた方に、年間５回の「学校・地域コーディネーター養成講座」を受講していただいています。来年度の推薦に向けて新しく学校・地域コーディネーターの配置を考えている場合は推薦のご準備を進めていただけるとありがたいです。

また、複数人配置することで活動が活発になることも考えられますので、お仲間を増やすこともご検討ください。一度に複数名の推薦も可能であり、複数名での養成講座への出席も可能です。推薦は、令和６年４月中旬より開始予定です。推薦をもって６月より開始される学校・地域コーディネーター養成講座受講可能となります。どうぞよろしくお願いいたします。

何かお困りなことがありましたら、いつでもご相談ください。
学校支援・地域連携課　６７１－３２７８